

### 商工業分野での取り組み

(津山商工会議所・作州津山商工会)

**牧野** 津山商工会議所では、産業振興として3つの取り組みを行っています。

1つ目は、昨年11月に津山商工会議所内に企業誘致特別委員会を設けて、新たな企業の誘致に力を入れています。企業誘致は、若者の定住促進や雇用の創出、消費の拡大につながると考えています。

2つ目は、津山の交流拠点である津山国際ホテルが閉鎖されることへの対応です。これについては、市と商工会議所、津山国際ホテルで対策協議会を設置し、協議を行いました。そして、新会社を設立して6月以降も営業を行うことが決定されました。

今後は、新会社で計画を立案し、事業を推進していきます。そして、市の支援を得て、新ホテルの建設も視野に入れて、事業を進めていきます。

3つ目は、津山市中心市街地活性化協議会の構成団体として、中心市街地の活性化に取り組んでいます。健康長寿のまちづくりを目的に、ダンスやヨガなどができる「まちなか健康サポート施設」の開設や津山の食文化を取り入れた「食のpromナード」を、今津屋橋通りを中心に設置し、津山の食文化をアピールしていきます。

企業が、自社で新製品を開発する場合、他社の技術を取り込んだり、ほかの研究機関と連携したりすることは有効な手段です。そこで、企業の合併や買収を進めたり、津山工業高等専門学校との連携を深めたりす



津山商工会議所 会頭 牧野 大作さん

### 市街地を活性化し、街に活気を

な戦略を立てて実行しています。

また、TPP交渉についても、食の安全・安心を危惧しています。

さらに、米の生産調整政策の大転換や耕作放棄地の増加、担い手不足など農業が抱える課題は深刻化しています。

これらの課題を解決するためには、農業の大規模化や集約化を進めることが必要です。しかし、個々の農家での取り組みには限界があります。そこで、集落営農など農家の組織化や法人化の支援を行政などと連携しながら進めていきたいと思っています。

また、少量・多品目で特徴のある農産物を生産することも生き残る道の1つだと考えています。消費者により付加価値が高く、こだわりのある農産物を販売するため、管内に5カ所の直売所を設置して、地産地消を進めています。

**西本** 津山市森林組合では、健全な森づくりや地域の林業、木材産業を振興するための事業を行っています。特に、美作産木材の需要を伸ばすため、関係機関と協議会を立ち上げ、設計コンペや展示会を行うなどPR活動に力を入れています。

また、全国の住宅着工戸数は、今年4月の消費税率引き上げを受けて、駆け込み需要が高まり、平成25年は



津山農業協同組合 代表理事組合長 最上 忠さん

### 地域特性を生かした農畜産物生産

100万戸を超える見込みです。全国的にも、木材の需要は高まり、木材価格は上昇しています。

しかし、これまでの木材価格の低迷によって、山林所有者が林業から遠のいたため、山林の管理が十分に行われていなかったり、林業従事者の高齢化や担い手不足によって、伐採量が落ちたりしています。このため、供給が必要に追い付いていないのが現状です。

森林組合の生産現場でもフル操業していますが、なかなか、需要に追いつきません。

作業効率を上げるためには、作業道の整備や作業機械を高性能なものに更新する必要があります。また、外国産材などとの競争に勝つためには、作業の集約化や団地化を行い、作業の低コスト化を進める必要

があります。国が地球温暖化防止策として、木質バイオマス発電などの政策を進めています。それは、今まで活用されなかった間伐材が有効利用でき、山村地域の活性化につながります。わたしたちも行政や関係業界と連携して、この政策に沿った取り組みを進めようとしています。

### 産学官連携での取り組み

(津山工業高等専門学校)

**則次** 津山工業高等専門学校では、平成15年に「地域共同テクノセンター」を開設して、産学官連携を推進しています。

産学官連携には、大きく次の3つの形態があります。1つ目は、ニーズ・オリエンティ

### 周辺地域から、津山を盛り上げる



作州津山商工会 会長 田村 正敏さん

ることは、津山から新しい発想の商品を生み出すことにつながると思っています。

**田村** 作州津山商工会は、勝北・加茂・阿波・久米地域と奈義町をエリアとして、個人事業主や小規模事業主が数多く加入しています。会員の中には、経営基盤などに課題を抱えている事業主もいるので、経営指導員に相談しやすい環境を作るため、事業所を小まめに巡回し、本音で話し合える関係を作る努力をしています。会員のニーズは、高度な知識や経験が必要とするものもあるので、昨年からは、岡山県商工会連合会の「広域サポートセンター」と連携した経営支援を行っています。

また、会員が地域資源を生かした加工品などを開発し、全国に販売す

ることを支援しています。さらに、地域内の人口を増やすため、空き家対策に取り組んでいます。昨年は、空き家の状況と所有者の意向を調査し、約200軒の空き家を把握できました。今年も、行政とも連携して、移住希望者などに情報を発信していこうと考えています。

### 農林業分野での取り組み

(津山農業協同組合・津山市森林組合)

**最上** 津山農業協同組合では、3年ごとに中期3カ年計画を立てています。現在は「次代へつなげ！ 新生つやま」をスローガンとして、10年後の地域農業を見据えた、さまざま

ツド(企業の課題を大学や高専と一緒に解決していくこと)、2つ目は、ニーズ・オリエンティツド(大学や高専の研究資源を利用して企業と市場に導入していくこと)、3つ目は、ニーズ創生型(新しいニーズを大学や高専、企業で作りに上げていくこと)です。

現在は、ニーズ・オリエンティツド型の連携が多いのですが、津山高専としては、ニーズ・オリエンティツドやニーズ創生型の連携に取り組んでいきたいと思っています。

現在、国では、グリーン・イノベーションと言われる環境関連技術を生かした産業戦略や、福祉介護ロボットの開発などに見られるライフ・イノベーション、農業や林業の集約化、ロボット化などに対応した技術開発が進められています。

今後、これらの分野で津山の特性を生かした開発を行うならば、中山間地域を活用した小水力発電や、病院や介護施設と連携したロボット開発などがテーマになると思います。こういった開発を推進する上でも、情報交換の場が不可欠です。全体的な連絡会議を作って、定期的に話し合い、津山の特性を生かしたテーマごとに設置したプロジェクトチームで研究を行えば、新商品の開発につながると思います。

津山の特徴や特性を生かした新商品を開発し、情報を発信することで、そのまちな魅力も上がります。そして、若い人も集まると思います。